



「教える」「学ぶ」ということ

中村 分かりやすく教えていただいたので、納得して作業でき、充実感も達成感もありました。うまくできなくても「大丈夫ですよ」と言われると、どんどんチャレンジできました。子供たちにも、まず仕組みを教えてあげれば、あとは自分の考えや発想で、のびのびとできるなと思いました。そういう意味では、今日は教わる側になってみて、ほめることは大事だと実感しました。

風間 「これはだめ」「こうなさい」という言葉を多用する教え方は、あやういことだと思います。「うまくできたね」の一言で自信を持ち、人生を拓くこともあります。勉強や運動が苦手でも、工作が得意な子供もいる。そういう子供の励みになれば良いと思います。

木にも性格があります。同じ材種でも木目の入り方で相当違うんです。でも異質なものを排除せず、むしろそれを個性として伸ばしたい。ただ、そのような理想をかたちにするには、技術と経験が必要です。これは教員も同じじゃないでしょうか。

中村 子供たちへの声掛けや、納得がいく授業を続けていると「子供の成長」というご褒美が返ってくるんです。それが教員の醍醐味です。でもそれを得るためには、家具職人と同じで、学ぶ姿勢というのが常に必要です。教える立場にある私たちは、子供以上にしっかり学ばないといけないと思います。

になるスツール作りのお手伝いをします。まずはスツールの脚になる木材のすべての面にカンナがけをします。平坦に削るためには、バランスよく力をかけないといけません。うまくできていると、シューという心地よい音とともに、ゆばのような削りクズが勢いよく出てきます。カンナを使うのは中学生以来という中村さん。最初はひっかくような音とかつお節のような削りクズばかりでしたが、風間さんの指導で少しずつうまくなっていました。「すごく地道な作業ですね」という中



商品になるスツールの脚部にカンナがけ

家具の形は、全体の9割ほどできないと見えてこないそうです。作品が完成するまで半年かかる場合は、そのほとんどの期間をカンナがけなどの地道な作業に費やします。家具職人を続けていくためには、そのつらさに耐えなければなりません。

家具職人という仕事

今回は道具をノミに持ち替えて、余りの木片を材料にした木の指輪を作ります。でもその前に家具職人にとって



木の指輪が完成してすてきな笑顔の二人

村さんの言葉に、風間さんが応えました。「やろうと思えば、外から見えない部分などは手を抜けません。でもそれをやってしまうと、ずっと悔やみ続けることになる。うまくいったところはあまり覚えていないんですけど、失敗したところはずっと覚えてるんです」

最も大切な道具の手入れを学びます。刃物の切れ味が鈍ると、作品の出来が悪くなりますし、事故が起きやすくなるそうです。使い込んで刃部が短くなったノミを砥石で研ぎ、準備ができました。四角形の木片の真ん中に機械で穴を開け、その周りをノミで削り落とし、指輪の形に仕上げます。

中村さんは「一度削ってしまえば元には戻せないのです、緊張感があります



今回は、自然木を切り出した無垢材を手間暇かけて加工し、世界でたった一つの家具を作り出す家具職人の仕事体験です。体験者は府中市の小学校の教員である中村かおりさん。「職人の方といういろいろお話ししたいですし、この経験を図工の授業にも生かすことができました」と意気込んでいました。受入れ先は、家具職人である風間純一郎さんが一人で運営している家具工房「アゲハオリジナル」(千葉市)です。風間さんはいわゆる「がんこ職人」というタイプではありません。ワークショップを開いたり、小学校で出前授業をしたりと、木工の魅力を広く伝える活動をされています。

さっそく作業場に降り、実際の商品に挑戦。素材になる自然木の形を生かして作られた風間さんの家具は、大量生産品のものとは違って個性的なものばかりです。新鮮味のある見た目とともに、触り心地の良さが印象的です。その代表ともいえる、独特な形状をしたテーブルに向き合ってガイダンスを行い、仕事体験が始まりました。



商品になるスツール作り挑戦

最後に一日を振り返って体験は終了です。中村さんに感想を聞くと「体験したことで、家具職人のイメージが変わりました。おしゃれな家具の背景には、職人さんの苦労や努力があることが分かりました。プライドやポリシーを持って仕事をしている生き方が素晴らしいなと思いました」と満足した様子でした。

当コーナーの参加者募集!

今回は、時代を問わず女の子が就きたい職業に挙げる「花屋」体験です。受入れ先は「エルスール」(杉並区)の予定です。ご自身の昔の夢をかかえるもよし、児童・生徒の夢を体験するもよし、奮ってご応募ください!

差込の「かがやき」編集担当宛てはがきにある「仕事を学ぼう!への参加希望」の欄にチェックを入れてお申し込みください。

応募締切 平成26年1月31日(金) 必着

取材時期 2月上旬

組合員×プロフェッショナル 仕事を学ぼう!

このコーナーは組合員が異業種の職場を訪れ、その仕事を体験する企画です。普段とは違う仕事をし、その道のプロの方たちと意見交換することで、新たに学ぶことも多いものと思われています。

家具職人の仕事を学ぶ

Cabinet maker

- 午前10時30分 ガイダンス
- 午前10時35分 スツール作り
- 正午 ランチミーティング
- 午後1時 道具の手入れ/木の指輪作り
- 午後2時30分 体験まとめ/対談
- 午後3時30分 解散



家具職人の風間さん(右)からスツールの説明を受ける中村さん(左)。周りには独創的な家具が並ぶ

今回の組合員代表

府中市立本宿小学校勤務 中村かおりさん

工作や絵を描くことが好きな子供だったという中村かおりさん。教員歴10年の主任教諭で今年度は2年生の担任をしています。趣味は演劇・音楽鑑賞、マラソン、旅行、日記を書くことと、興味の幅が広い活発な方です。

今回のプロフェッショナル

家具職人 風間純一郎さん

もともと広告会社にグラフィックデザイナーをしていたという風変わった経歴の持ち主です。長く使われる物を作りたいという理由で転身し、技術専門学校などで技術を学んだ後、家具工房「アゲハオリジナル」を設立。